

暗黙知を伝えることの大切さ

職業能力開発総合大学校 名誉教授 大川 時夫

編集部から、「暗黙知をどのように表現し伝えるか」という設問をいただいた。小生の短い人生で見聞きした経験を述べることでお許しいただきたい。広辞苑で調べると、「黙って言わない知識」ということになる。それではあるのかないかわからないではないか、と言われそうである。暗闇で黙って知る、とはもぐらが地面の中でミミズを食べることではあるまいか、という冗談にもなるし、深海魚が暗い水底で音と臭いで餌をあさる姿を彷彿する。暗黙の対語は明聞（文）である。言葉に表せれば、文明社会では世間に理解されやすい。言葉にならない知識がいかに大切かという、言葉を持たない動物たち、熊や狐、鳥や魚たちが子孫を育て生きてゆく術を伝授する姿を見聞きするが、あれはまさに暗黙知の伝承といえるだろう。見よう見まねで生きる術が伝承されているのではないか。それもほんのわずかな時間のうちに生きてゆく術を学び取るのである。同じことが人間生活の中にもある。職人を育てるには、「教えてはいけない、盗ませよ」という物騒な表現があるのは御存知であろう。それも幼年期から少年期のはじめ、いまだ世間の理屈がわからない間が適している、それは年齢的には10歳から13歳程度、ちょうど小学校上級から中学校のころが最適で、それ以後になると伝承力は激減する、理屈を言うようになっては効力がないからである。今日の文明社会ではそういう暗黙知を否定する方向にあり、すべてはマニュアルのように文字で表現された知識で立ち居振る舞いを指図することが一般化している。人間社会には言葉に表現できないさまざまな行動やしきたりがあ

る。例えば殺人をしてはいけない、とか人の物を盗んではいけない、などはそこに法令があるからいけないのではなく、法令いぜんに人間としてやってはいけないことだからである。生き物同志が互いに慈しみ合う習慣は幼年期の生活の中で自然に体得しなければ人間社会が成立しないのである。昨今の報道記事をみていると、どうもこの暗黙知が伝わっていないように思える。少なくとも教育制度が現在ほど整備されていなかった20世紀中葉以前には少しはマシであったように思うのは身びいきであろうか。家族の暮らしや周辺社会の暮らしが生きていた時代には子どもや家族の近所付き合いの中でこの暗黙知が自然と伝わったのである。社会が近代化され金権的に消費社会が整備され、里山が失われるとともに人間の暮らしが疎遠になり、家族が分散して意志の疎通も疎らになり、そして以心伝心的な暗黙の了解のごとき思いやりの気風も崩れてしまった。暗黙知といわれる人間としての心遣いはそれを育む社会組織がないと育たないのである。編集者の設問には企業における暗黙知をどう伝えるのか、という問いもあった。現在の生産社会ではあらゆる工程が分業化され、マニュアル化されているので、暗黙の了解などは禁物であり、企業ではそれをノウハウなどと表現することもあるが、きわめて限られた分野にしか残っていない、といえる。現代社会は暗闇のない社会なのである。ということは反面的に人間的思いやりを棄てた社会なのである。それは困ると言うのであれば完全分業化と昔ながらのやり方を残す社会を同時に維持する、経済特区ならぬ分化特区を設けることが

望ましいだろう。そんなことができるのか？ という疑問に対して、伝統技術社会では現在もそれが見られるところがあるとお応えしたい。例えば漆器産業で有名な石川県の山中や輪島へ行くと昔ながらの手法を護り続ける職人社会が生き続けている。そこでは昔ながらの徒弟的修業が行われているのである。



ろくろ作業をする職人（川連にて）

キャリア・カウンセリング

理論と実際、その今日的意義

改訂新版

木村 周

A5判 352ページ

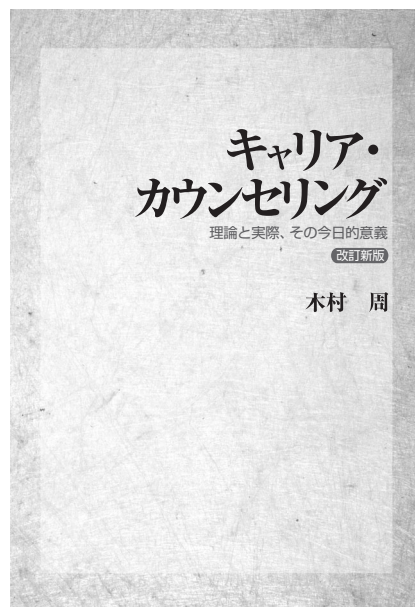
定価 2,730円(本体2,600円)

ISBN4-87563-218-5

好評発売中

近年ますますニーズが高まっているキャリア・ガイダンスとカウンセリングについて、広範にわたり諸理論を紹介・解説した第1部と、実践に即した具体的方法について詳説した第2部により構成。97年発刊の初版を全面的に改訂。

わが国のキャリア・カウンセリングの草分けの一人である著者による本書は、この分野における標準的テキストとしてキャリア・カウンセリングに関心をもつすべての人にお奨め。



■発行所

社団法人 雇用問題研究会

<http://www.koyoerc.or.jp>

〒104-0033 東京都中央区新川1-16-14 電話 03-3523-5181(代表) FAX 03-3523-5187